

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	2	課題区分	C	令和8年(2026年)3月30日
横断的な課題	高速交通網開通の効果を地域づくりに最大限に活かす基盤整備					南信州地域振興局
地域重点政策	高速交通網開通の効果を最大限に活かす基盤整備					
実施機関	南信州地域振興局					
事業名	女性・若者に選ばれるためのまちづくり勉強会	担当課	所属	リニア活用・企画振興課		
			電話	0265-53-0401		
			E-mail	minamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線開通まで約10年と言われる中、南信州地域が『女性・若者に選ばれる地域』になるため、郷土愛を醸成し、地域の魅力を再発見するきっかけをつくる。				
	現状と課題	南信州地域は、19歳～59歳までの構成比が全国平均を下回っている。特に22歳、23歳は全国平均の半分程度の構成比となっていることから、進学等で地域を離れたまま、回帰する割合が他地域よりも低い可能性が高い。今後、さらなる人口減少・高齢化が進展する中、今後見込まれるリニア中央新幹線開通を転換期として、南信州地域が『女性・若者に選ばれる地域』になるため、現在の地域課題(人口減少・若者流出)に対する具体的なアクションのきっかけをつくる必要がある。また、若者に対し、郷土愛を醸成し、地域の魅力を再発見する機会を創出する必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	○女性・若者に選ばれるためのまちづくり勉強会「愛される南信州。選ばれる未来。」の開催。 ・リニアがやってくる南信州地域。人口減少社会においても魅力ある“選ばれる地域”となるため、未来を担う女性・若者のウェルビーイングに焦点を当てたまちづくり勉強会を開催した。 【概要】 日時:令和8年3月8日(日) 13:30～16:30 場所:丘の上結いスクエア 大会議室A、B (飯田市東和町2-35) 対象者:南信州地域の未来に関心のある方 内容: ・基調講演『ウェルビーイングとまちづくり』講師:早坂 淳先生(長野大学社会福祉学部教授) ・トークセッション『女性・若者が住みたくなる南信州とは』 登壇者 栗塚 夕華 氏[飯田下伊那PTA連合会会長、長野県PTA連合会副会長] 森山 万里 氏[(有)森山、(一社)飯田青年会議所] 蛭名 朋花 氏[信州大学大学院ランドスケープ研究室] 熊谷 弘 氏[南信州まちづくりフォーラム会長] ・南信州まちづくりフォーラムと連携して開催。				
	事業期間	令和8年1月 ～ 令和8年3月				
事業費	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	まちづくり勉強会の開催	講演会・トークセッションの実施	92,930	講師等報償費61,800円 講師等旅費18,830円 会場使用料12,300円		
	合計		92,930			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	まちづくり勉強会への参加者		70名	54人	未達成	
事業実績・成果	【実績】 ・プログラムは、①基調講演「ウェルビーイングとまちづくり」(講師:長野大学 社会福祉学部 教授 早坂 淳 氏)、②登壇者(栗塚夕華氏・森山万里氏・蛭名朋花氏・熊谷弘氏)によるトークセッション、③質疑応答・交流で構成し、予定どおり実施した。 ・開催結果は地元メディアで報じられ、基調講演の要旨(多様性の重要性や小さな変革の実践)や会場意見等が紹介された。 ・参加者は54名で、目標には到達しなかった。周知期間の短さやターゲット別の広報が不足していた等の要因が考えられる。 【成果】 ・女性・若者視点の論点が整理された。具体的には、①柔軟な働き方や女性が働き続けられる環境整備、②住民自らの地域魅力の積極的発信、③生活インフラの安心感の重要性、④学校現場における多様性対応の課題、⑤地域資源の発掘・継承体制の必要性等が共有された。 ・南信州まちづくりフォーラムと行政の共催で実施し、また当日は官民様々な立場の方が参加したことで、このテーマに関する官民連携の深化につながった。 ・外部報道により、当日の論点や参加者の声が広く伝わり、地域内外の認知向上に一定の効果があったと想定される。 ・上記論点の整理により、次段として医療・子育て・教育・就業・情報発信等の分野で、具体施策検討へつなげる素地が形成された。					
今後の方向性	・まちづくりフォーラム等、地域の団体、事業者との連携、支援を継続し、地域全体での認識共有や自主的・主体的なアクションの促進等を促していく。 ・今後は事業を実施する際は、多くの団体との早期の連携を意識し、情報発信の段階から連携して取り組むことで多くの方に参加いただき、認識の共有・自分ごと化を図る。					